



地元に戻り 新たなライフスタイルを

「おかえり」安曇野

も うすぐ年末年始。安曇野にも多くの皆さんが帰省します。今回の特集では、地元に戻り、新たなライフスタイルを追求する魅力を見つけてみませんか。

野 尻裕城さんは、両親が営む洋菓子店を継ぐと家族で安曇野へ帰郷。野尻さんファミリーにそれぞれの思いを聞きました。

——Uターンのきっかけは？

子 東京で修業し、いつか安曇野に戻りたいと思っていました。きっかけになったのは、長男の小学校入学のタイミングで

子・野尻裕城さん(29)
東京の専門学校への進学し、都内に就職。3月に地元である安曇野市へUターンし、現在は松本市の菓子店に勤務。



すね。転校させるのはかわいそうかなと思っていました。あと、父が体調を崩したことも、戻ろうと決めた理由の一つでした。

——家業を継ぐと思ったのはいつから？

自然と父の背中を追っていた

子 私は一人っ子なのですが、両親から一度も同じ職に就くように言われたことはないです。ただ、高校卒業後の進路を考えた時に、自然と店を継ぐう、父が懸命に取り組んできたケーキづくりをしようと思ひ、製菓学校に進みました。

——息子さんが「継ぐ」と言ってきたときの心境は？

新たな風に刺激をもらう

父 私も妻も自分たちの代で終わってほしいと考えていましたが、なぜか私

年前、両親引退を機に「ペイサー樹NOJIRI」をオープンしました。

——実際、安曇野に戻られてどうですか？

子育てに安心感

子 やはり慣れていくこともあって住みやすいです。今は、実家の近くに住んでいますが、子育ての面でも両親がいてくれるし、祖父も面倒を見てくれる。近所の皆さんも顔見知りなので、外で遊んでも地域の目もあり安心だなと感じています。

妻(百合さん)とは製菓学校で出会ったので、2人ともいつか店をやりたいと思っていました。帰ってきてお店を手伝うようになって、ようやく父の大変さが分かってきました。職人として、30年を超えて店を経営し続けている父を尊敬しています。家族経営のケーキ屋にしては商品も多い方だと思うし、売れ行きは時期の波もあるので、その中で工夫して店を営むのはすごいと思っています。

——埼玉県出身の百合さん。安曇野に移住していかがですか？

顔が見える関係にメリット

百合さん 冬が寒いですね！(笑)自然が豊かなので、子どもたちものびのびしています。お菓子作りの面でも、農家さんとながって顔が見える関係で

種類が増え、工場も作って規模が大きくなるのを見ていて、これは継がなきゃいけないという気持ちでしたね。ただ、自分は洋菓子をやりたいだったので父と話し、平成元年には洋菓子とパンの店として再出発しました。そして5

父・野尻裕一さん(59)
両親が1979年に創業した店を継ぎ、ケーキ作りをいそしむ。現在2代目。



お菓子作りができるのは東京ではなかったこと。新鮮なフルーツが手に入るのも、ケーキづくりも楽しいです。好きなリングが入るのもうれしく、今は二つのリングのケーキが並んでいます。パニエ(下写真)は県内コンクールで3位を受賞し励みになっています。

——今後の目標、夢を教えてください。

家族でお店に立つことが夢

子 まだいつになるかは未定ですが、私が両親と妻と一緒にお店に立つ時は、今あるものを大切にしつつ、新し

現在は、裕城さんの妻・百合さんが店を手伝う。菓子作りを通じて熟練の経験と新しい技術が競演する。



父・裕一さん、息子・裕城さんほか、3世代が全員集合！家族で営む「ペイサー樹NOJIRI」は穂高で40年以上続く老舗。地元産の素材を使った色とりどりのスイーツが店内に並びます。



ショーケースに並ぶ百合さんが作るリングのパニエ。



いことをプラスして、良い化学反応が起こせればと思っています。祖父から父へと育んできた地域とのつながりを大切に、皆さんから愛されるお店を目指していきたいです。

父 この年で新たな挑戦という大げさな年ですが、もうひと踏ん張りして地域に貢献できればいいと思います。